

## ■2018 D1 GRAND PRIX SERIES Rd.5 TSUKUBA DRIFT

コースコンディション:ドライ

PACIFIC RACING TEAM DUNLOP 村山悌啓選手(車両:NACガルパンS14激☆メガテックIK)

最終成績:単走決勝敗退(19位)

### ■レポート

D1GP第5戦は、7月中旬の酷暑のなか、茨城県・筑波サーキットで開催された。群馬県出身の村山選手にとっては、地元近く、優勝経験もあるコースだ。

もともと、今回の審査コーナーは村山選手が優勝した2015年とは異なる。メインストレートから、1コーナーを回り、S字を抜けて、第1ヘアピンを立ち上がったところまで。ドリフトコーナーがふたつあり、通常のコースであればふたつ分ともいえる長い審査区間が設定される。

1コーナーとヘアピンそれぞれで大きい角度と安定した姿勢が求められるが、そのためには進入速度も高めないといけない。いずれも振り出しを奥めにして、一気に角度をつける走りが求められる。さらにS字区間での振り返りの鋭さも得点に影響するコース設定だ。

村山選手は金曜日の練習走行でサスペンションメンバーが壊れ、修理を行ったものの、まずまずの手応え。土曜日・予選前の練習走行では、DOSSの得点を見ながら走り方を上げていくプランだ。

土曜日の1回目の練習走行、得点はいまひとつ伸びない。セッティングはあまり変えないまま、2回目の練習走行では角度をつける方向で走り方を試してみることにした。

2回目の練習走行では1点ほど点数も伸びたが、ほかの選手も同様に伸ばしてきたので、アドバンテージは築けなかった。ドリフト前の加速をがんばって1km/hでも車速を上げていこうというプランで本番に臨む。

予選1本目、車速は低めだったが、メインストレートでの角度やヘアピンでの姿勢の安定性などで得点をかせぎ、95.92点。まずまずだ。2本目は10km/h以上車速を上げてきたものの、こんどはメインストレートや1コーナーでの角度不足で、むしろ点を落としてしまい95.59点。しかし、1本目の得点でDグループ2位に入っていたので、問題なく予選を通過した。

予選本番で、スピードを意識したものの思ったような点が出なかった村山選手は、スピードを出しやすく、それでいて角度もつけられるようなねらいでセッティング変更をして翌日に臨んだ。しかし、日曜日朝のチェック走行はDOSSの採点が出ないこともあって、セッティング変更の効果はわからないまま単走決勝本番に臨むことになった。

そして日曜日の単走決勝本番。村山選手1本目の走行は、ストレートやヘアピンでの角度不足などが響いて得点が伸びず、94.83点。上位8名には入れず、2本目の走行にまわる。その2本目、村山選手はスムーズな走りを見せたものの、最初の区間でリヤタイヤをはみ出させてしまい2点の減点を受け93.95点に。19位で追走トーナメント進出はならず、単走決勝敗退となった。

次の開催地は村山選手が得意とするエビスサーキット。最終戦に出場できるランキング上位24名に入るためにも、活躍を期待したい！

### ■村山選手コメント

1本目は思ったより前に熱が入れられなかったです。暑いから全然平気かなと思って、ウォーミングアップの時も、皮をむいていなかったリヤタイヤばかり気にしてたんですけど、思ったより前が食わなくて、振り出しでちょっと引かかっちゃったんですよ。

2本目は.....出ちゃいましたね。出たといっても多分ほんとに左リヤがゼブラを踏んだくらいの自覚だったので、大きく出てるわけじゃないんですけど、今回はみ出しの減点幅は広いので、まあ、失敗ですね。

でも、次のエビスはやりますよ！ やらないとお台場行けないし。エビスは優勝したときからコースも変わっていないので、狙っていきます！

